

1 単元名 中世の日本

「東アジア世界とのかかわりと社会の変動」(全6時間)

美濃加茂市立東中学校 阿部杉子

2 単元のねらい

鎌倉幕府滅亡から室町時代にかけての社会変化・産業の発達を調べる活動を通して、室町時代の特色を理解するとともに、自治的な組織をつくるまでになった民衆の成長に関心を持ち、土一揆などの社会現象の発生理由を民衆の力の成長と結びつけて考えることができる。

3 単元で培いたい学び方

室町時代後半の幕府の支配力低下や、各地の産業・交通の発達を背景に、民衆が自治的な組織をつくり、一揆という形で支配階級に反抗するようになった。

4 内容のまとめりとごとの評価規準 歴史的分野の内容(3) 「中世の日本」

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。	武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。	武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。	武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史とかかわる東アジア世界の歴史を背景に理解し、その知識を身につけている。

5 単元の評価規準

	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	鎌倉幕府崩壊後の政治、社会、文化の変化に対する関心を高めるとともに、室町時代の民衆の成長について自ら課題をもち、資料をもとに深く追究する意欲をもとうとしている。	鎌倉幕府崩壊後の政治、社会、文化の動きから課題を見だし、土一揆の発生や、文化の発達の原因について、室町時代の民衆の成長を背景に考えている。	鎌倉幕府崩壊後の政治、社会、文化の動きについて、資料から幕府の政治のねらいを読み取ったり、土一揆などの社会現象の背景をまとめたりして、表現することができる。	鎌倉幕府崩壊後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史とかかわる東アジア世界の歴史を背景に理解し、その知識を身につけている。
学習活動における具体的評価規準	鎌倉幕府崩壊後の日本で、どのような人物が政権を握ったのか、また2つ目の武家政権である室町幕府がおこなった政治について、関心を高めようとしている。	応仁の乱が11年間も続いた理由を、義政と守護大名の勢力関係に関連付けて考えている。 室町時代の北山文化と東山文化の特色をさかえた時代の社会背景や将軍の力と結びつけて考えている。	義満が日明貿易を始めた理由が、経済的な利益と日本国王の地位を手に入れ、日本をまとめることであった点を読み取っている。 農民が借金による生活苦から土一揆をおこしていること、また、国人と農民が畠山軍の侵攻によって受けた被害のために国一揆を結成したことを読み取っている。	建武の新政後、尊氏が再び武家政治をうちたてたこと、南北朝の争乱の中で出た半済令によって守護大名が力を強めたことを理解している。